

法人(事業所)理念		当事業所は障がいのある人々が一人の人間としての尊厳を守られ、その人らしく自立する機会を保障するための事業を行います。特に障がいのある本人の自己選択、自己決定を尊重し、「生涯にわたる発達」(人間は生まれてから死ぬまで成長し続ける)を支援する活動を行い、関わる人すべてが共に育ち合う姿勢を持つことを理念とします。		
支援方針		日常生活における基本的な動作の指導、集団生活への適応訓練、その他必要な療育、支援を行います。どの活動においても、「無理やりさせない。したくなるまで待つ」姿勢で支援します。その人の成長の過程を家族と一緒に考え、見守ります。その人が自ら選んで行動できるような『場』や『機会』を提供します。困った時や苦しい時に、独りではなく一緒に考えることができる支援者がいることを知り、誰もが安心して助けを求められる事業所を目指します。		
営業時間		9 時 0 分から 20 時 0 分まで	送迎実施の有無	あり なし
支 援 内 容				
本人支援	健康・生活	遊びを終えて設定活動に移行する時間を自分たちで決めます。時間を意識して活動することを繰り返し、少し先の見通しを持つ練習をします。自分の荷物の管理、課題で使う物の管理をする練習をします。活動をする時に、自分の使う物をどう置けばやりやすいかなども含め、自分の荷物を管理していけるための援助をします。座っている時の姿勢や身だしなみについてのアドバイスをします。自分が人にどう見られているかを意識するよう支援します。 基本、保護者に送迎してもらいますが、小学校中学年以上になり、ひとりで通う人もいて、ひとりで通うための支援(期間限定)をします。		
	運動・感覚	少人数での集団音楽活動を行います。親しみやすい音楽、興味を持ちやすい楽器を使い、模倣することで、身体の使い方を理解し、自分の身体をバランスよく動かすための力を育みます。リズムに合わせ、タイミングを合わせ、力加減をするなどの様々な力を養います。音楽を聴きながら身体を動かすことで感覚を統合し、体幹を安定させるなど、身体の機能を促進させます。他の設定活動(学習、制作、クッキング)の中でも、正しい道具の持ち方や使い方を学び、同じ活動を繰り返し行なうことで、いろいろな道具をひとりで扱えるように支援します。様々な素材に触れることで、いろいろな感触に慣れる体験を積み重ねます。放課後等デイサービスに通う低学年のなかで作業療法士が認知作業トレーニング(コグトレ)が必要と思われる児童を対象に期間限定でコグトレを行っています。小集団の療育を実施している中で、療育担当者間でケース会議を行い、身体の使い方知る等本人にとって必要な場合は、個別療育を実施しています。		
	認知・行動	学習課題、制作活動、クッキング活動、音楽活動などを行い、手本をしっかりと見る力、模倣する力、理解して取り組む力を育てます。小さい頃から「今、誰を見たらいいのかわかるか」「今、誰の言うことを聞いたらいいのかわかるか」などを知るための援助をします。学習課題では、指導員と相談しながら自分に合った課題を選ぶ力を養います。答え合わせを自分でしてもらうことで、自分で自分の間違いに気づき、自分の間違いを認められることで自分を振り返る力、修正をする力、行動調整をする力を養います。「できた」ことを積み上げることで達成感を得て、やる気や意欲に繋げ、やり切る力や集中力を身につける支援をします。小学生になると、自分から主体的に学び、活動する力を育てます。失敗しても、失敗から学ぶ「トライ&エラー」で成功体験をすることで成長につなげていきます。小集団の療育を実施している中で、療育担当者間でケース会議を行い、言われたことを理解して取り組める等本人にとって必要な場合は、個別療育を実施しています。		
	言語コミュニケーション	低年齢児には、どの状況でどんな言葉を使うのかを代弁します。話せない人でもコミュニケーションは可能なので、その人なりのコミュニケーションを通して、相手を受け入れる力、関わってもらってうれしい心を育てます。しぐさや発声で気持ちを伝えた時に通じたという経験を積み、積極的に相手に気持ちを伝える援助をします。話せるようになった人には、自分の言いたいことだけでなく、相手が言うことを聞いて答える、コミュニケーションの力が育つよう援助をします。主に2歳の学年と年長の学年で、個別に期間限定の言語訓練を行います。その人に応じた訓練を行い、コミュニケーションしていける力を養います。小学生以上の人も個別の構音訓練を行うこともあります。小集団の療育を実施している中で、療育担当者間でケース会議を行い本人にとって必要な場合は、個別療育(言語訓練)を実施しています。		
	人間関係社会性	集団に馴染みにくい場合、どの部分なら参加できるのかを探り、その人なりの参加の仕方を大切にします。遊びの中や設定活動の中で、困っている時に助けを求める力、「一緒にしたい」「手伝ってほしい」「やりたくない」「もっとしたい」などの気持ちを伝える力を養います。自分が言ったことで相手がどう思っているかを知ったり、相手と意見が違う時にどう考えて行けばいいのかを一緒に考えサポートします。学習課題は指導員と相談して決めます。人と相談する力、交渉する力を養います。その人が将来社会に出た時に自立するために身につけておいた方がよい力を考え、小さい頃よりその目標に向けて今つけておくべき力に着目し支援します。小集団の療育を実施している中で、療育担当者間でケース会議を行い気持ちのコントロールを強化する等本人にとって必要な場合は、個別療育を実施しています。		

<p>家族支援</p>	<p>年長児の夏まで、親子同室の療育を行ない、療育の中で保護者に子どもへの関わり方を具体的に見てもらったり、アドバイスします。困っていることを見方を変えて、良い所として考えられるよう、とらえ方のアドバイスもします。また、不安に思っていることを相談しやすい環境設定に心掛けます。年に2回、面談を行い、相談に乗り、療育での子どもの成長を伝えていきます。保護者からの希望があれば、その都度面談の時間を作っています。</p>	<p>移行支援</p>	<p>就学に向けて、保護者と面談し、必要に応じて園や学校とも連携し、情報共有します。 進学、就職に向けて本人、保護者と面談します。必要に応じて、学校や就職先とも連携します。 自分のことを知り、進路を決めていく援助を行います。</p>
<p>地域支援・地域連携</p>	<p>必要に応じて地域の幼稚園、保育園、小学校、特別支援学校と連携します。療育に通いにくい（送迎しにくい）保護者を中心に、保育所等訪問支援を取り入れます。（月2回程度） 月に1回、誰でも参加できる音楽活動の定例会を開催します。 地域の行事に参加し、地域に根付いた事業所を目指します。</p>	<p>職員の質の向上</p>	<p>職員の学びを深めるために社外研修に参加するよう勧奨します。 職員が不安なく支援できるように、毎日のチームミーティングで情報共有をします。 年に2、3回の社内研修で、それぞれが社外研修で学んできたことを伝え合ったり、日頃悩んでいる内容について検討し、必要に応じて講師を呼んで研修を行ないます。 職員交流の場を持ち、職員間の交流を深めるために、年に1回程度のレクレーションを行ないます。</p>
<p>主な行事等</p>	<p>お餅つき・避難訓練</p>		